

※作業前に、競技委員長や審判委員長の指示を確認し、決して個人の判断で勝手に決めないこと

1. 設営手順

(1) マスキングテープ（薄茶色または肌色）を貼る

- ・支柱立て穴の金属のふた、床の割れ目やくぼみなど危険箇所をふさぐ
- ・ラインテープを貼りたい付近のペイントされた紛らわしいライン（特に白系ペイント）は、ライン貼付箇所から50cm程度を目隠しする

(2) ラインテープを貼る

- ・2人組で作業するが、テープの端を持つ側で、スタートの向きがゆがんでいると上手く貼れないので、端を押さえる側の人貼りたい方向にまっすぐ置くよう、特に慎重さが求められる
- ・コートの横ラインから先に貼り、すべての横のラインを貼ったのち縦のラインを貼る
- ・エンドとサイドのラインは採寸（8m×16m）の内側に、アタックラインは採寸（センターライン中央から2.7m）のネット寄りに貼る《p.20 第2図中央左の拡大円》
- ・《p.20 第2図》を参考にするが、小学生は《p.94 第1条1》の規定で採寸する。なお小学生のアタックラインの延長に貼る破線は4本で、サイドライン外側の縁から1.4mとする（監督制限ラインを設ける場合はここから90度向きを変え、サイドラインに平行に最初20cm空けて破線を貼る）
- ・ウォームアップエリアは3m×1.5mを基本に、会場サイズに合わせて決めるが、両サイド均一にする。エンドラインから3m程度後方に離すが、それ以上遠いと選手交代の控え選手の遅れにつながる。

(3) 支柱を立てる

- ・上部ロープを巻き取るリールの付いている柱は、主審側に立てる。（副審側に巻き取りリールがあると、副審の動きの邪魔となるため）上部滑車の向きが対の支柱方向を向くよう斜めを向かないよう注意。

(4) ネットを張る

① トップロープを支柱の滑車に掛け、ピンと張る

- ・このときエンドライン中央から見て左右対称に、サイドラインからはみ出す長さを均等にする、通常ネットの長さが9.5mでは、サイドライン上から左右75cm（網目7マス半）はみ出すこととなる
- ・ここで一旦ネットの高さを測る
アンテナなど付ける前の段階では、ネット中央で規定の高さ2.00mより少し高いくらいが丁度良い
左右のサイドライン上の高さは、2.00mより数mm高くするが、左右全く同じ高さにする
- ・ネット上部白帯についているヒモを滑車近くで結ぶが、これもできるだけ強く引っ張り、支柱に沿うトップロープの内側を通して結ぶ

② アンダーロープをピンと張る

- ・ネット下部の白帯の中を通してあるロープを先にピンと張り支柱に固定する
このときネットの上下幅が1mとなるよう気をつける（1m無いとアンテナを付けられないか曲がる）
- ・次にネット下部についているヒモを支柱で結ぶが、できるだけ強く引っ張り、アンダーロープと並行（1cmほど隙間）に水平に引く、このときネット下端の両端は、ネット上部両端のそれぞれ真下に位置するよう左右均等に調整する

③補助ロープを結ぶ

- ・ネットの網目、上から4マス下部に1本目、さらに3マス下部に2本目の補助ロープを付け、水平に支柱に結ぶが、このときも支柱のトップロープの内側を通して結ぶ
- ・補助ロープは強く引きすぎず、ネットの網目の正方形を維持できる程度の強さで水平に引く

④ネットの高さを測る

- ・まずはコート中央でのネットの高さが、規定の高さちょうどの2.00mであること
- ・両サイドライン上では、左右全く同じ高さで2.00m～2.02mの範囲に収まること《p.24 2.1.2》

⑤サイドバンドを付ける

- ・サイドバンドの幅は5cmで、床のサイドラインの直上に取り付ける《p.25 2.3》《p.23 第3図》
- ・このときエンドラインまで下がって、サイドラインの真上にあるか目視確認する

⑥アンテナを付ける

- ・アンテナはサイドバンドの外側の縁にアンテナ（1cm幅）の内側が接するように取り付ける
- ・アンテナ上部の取り付け具はサイドバンドに2～3mm程度重ねて取り付けるとアンテナとサイドバンドが接するように取り付けられる

⑦もう一度ネットの高さを測る

- ・前④と同じ
- ・高さの微調整は、支柱の高さやトップロープの張力などで行うが、アンテナ位置がずれるので注意

⑧コート責任者のOKが出たら、支柱保護カバーを取り付ける

(5) ベンチを配置する

- ・ベンチは9席（監督・コーチ・マネージャー、控え選手6名分）置く
- ・最も記録席寄りの席（監督席）はアタックライン延長上から1m離して置く
- ・床用柄付きモップを両ベンチ後ろに置く（危険がなければウォームアップエリアに置く）

(6) 記録席・審判台・点示板を配置する

- ・記録員席は、支柱に向かって右側に少しずらして置く（記録員と主審がアイコンタクトできるように）記録の机と両ベンチ、ウォームアップエリアは、それぞれの前端を一線に揃えて配置する《p.19 第1図》
- ・椅子を、記録席に2脚、点示板に2脚 置く
記録席にはボール拭きタオルを用意する
- ・点示板の位置に厳密な規定は無いが、通常ウォームアップエリアに入らないややコート寄りに置く
記録員やチームベンチからの見易さはもちろん、観客からの見え方にも配慮する

(7) 安全確認

- ・アンテナ下部に針金類の飛び出しがあればテープで保護するなど、選手の安全に配慮し点検する
- ・床の穴や傷、トゲなど入念にチェックする。見落としの無いよう複数人で横一列に並んで点検するなど工夫する
- ・壁や天井に取り付けられた用具類（バスケットゴール、クライミングロープなど）の空間上の危険ヶ所も点検すること